

## 評価結果の内容にかかる審議結果

### 1 成果指標の妥当性などについて

#### (1) 質疑

##### Q1 指標全体

この3つの指標が妥当なものであるかということが、まず問われる。どうしてこの指標を選んだのか。選定理由と経緯について、教えてほしい。

A1 指標1（森林整備面積）は、地域の基幹産業である林業振興が、地域の活性化に資するものとして、設定した指標です。

指標2（観光入込客数）は、越路・小国地域に限定した観光入込客数であり、地域への滞在、あるいは回遊する人口の増加を見込んで、設定した指標です。

指標3（広域観光ルート）は、観光滞在時間の延長や観光の立ち寄り易さという面において、移動時間の短縮を指標として設定したものです。

いずれも地域再生計画に掲げた5つの目標を定量化するために、この3つが妥当であるとして内閣府から認定いただいたものです。

##### Q2 指標2について

平成21年度以前と平成22年度以降で集計の仕方が年度から暦年に変更されている。どの程度の注意が必要か。また、感覚的に大きく見方を変える必要があるか。

A2 出典元で集計方法が変わったものです。期間が少しずれていますが、1年間の集計値であることに変わりありません。

##### Q3 指標2について

小国・越路地域に限定した数値であり、かつ、平成25年度の観光入込客数が増えたということか。

A3 小国・越路地域に限定して計測しています。また、平成23年度から平成25年度において、減少傾向が改善され、増加傾向に転じました。

##### Q4 定性的な効果について

「定性的」という表現の意味は何か。

A4 10倍や100倍のように数字で表すことが困難な、性質が変わったものを定性的と表現しています。

#### (2) 審議の内容

ア 指標1（森林整備面積）の達成度「○」について・・・「○」で合意

イ 指標2（観光入込客数（計画区域））の達成度「△」について・・・「△」で合意  
補完しているその他指標1（スマートIC利用者数）の評価が高く、それとの関係性を考慮して消去法により結論付ける。「×」ではなく、「○」は付けにくいいため、「△」とする。

(ア) 今回の社会基盤整備は、道路が通る場所だけが効果を持つわけではなく、それによって他地域にも効果が発現するという視野を持つと、その他指標1・2が指標2を補完する関係にある。

- (イ) その他指標 1 (スマート IC 利用者数) によると、観光客との引っ張り合いで、中越地震以降はインターを降りて山古志方面に行く人が多く、反対側の越路・小国方面に行く人が少ないという事実はあるものの、スマート IC を利用している人は、少なからず増えている。
  - (ウ) スマート IC 利用者数のピークは、平成 23 年度から平成 24 年度に大きな分岐点があり、平成 23 年度までは片貝まつり、その後は、長岡まつりがピークになっている。広域的な混雑の緩和や観光客がスムーズに長岡エリアに入ってくるために、基盤整備が役立っているという目線で見れば、この計画は非常に役に立っている。
  - (エ) 広域的にはかなりの効果があったし、全体としての観光客数は増えているため、結果として良かった。
  - (オ) 目標値に対して数値は低いものの、数字だけでは計れない効果を考慮する必要があり、「△」の範囲内にある。
- ウ 指標 3 (広域観光ルートの形成) の達成度「△」について・・・「△」で合意
- 【内容】
- (ア) 目標値が平成 24 年度となっているが、アウトプット指標であり、時間が経てば「○」となる見込みのため「△」とする。
- エ その他指標 1 (スマート IC 利用者数) の達成度「○」について・・・「○」で合意
- オ その他指標 2 (観光入込客数 (長岡市全域)) の達成度「○」について・・・「○」で合意

## 2 今後の地域再生方策について

### (1) 整備計画の策定に関する意見

- ア 今後は、利用者や住民の満足度に関する指標の設定が必要ではないか。
- イ 市民感覚では、道路の路線番号や県道や市道の管理区分には、関心がない。いかに快適に移動できて事故のない道路形態であることを望んでいる。
- ウ 福祉デマンドネットワーク研究会では、人工透析の方の送迎をしているが、交通弱者にとって、タクシーは高く、バスは不便な状況が見受けられる。透析患者の方は本当に困っている。道路ネットワークと住民目線の関連性を踏まえた、定量的・定性的に踏み込んだ計画作りが必要ではないか。
- エ 観光客入込客数の指標については、一定の場所で定点的に観測している数字であるため、指標としての有効性はある。また、口コミのように観光客満足度の指標では計りきれない効果も考えられる。
- オ 目標設定は本当に難しい。また、妥当性は常に検証していく必要がある。この計画は、全体的にハード・ソフト面をあわせてとてもよく練られていると思う。
- カ 地域再生計画の目標には、交通が中心に掲げられている。それに対して、ソフト対策である関連事業では、産業と防災の視点が、比較的多く包含されている。再生計画の目標の中に、産業や防災の視点も加味していると、なお良かったのかもしれない。
- キ 今後、計画で指標を設定する際は、人口も減少しているし、あまり大風呂敷を広げずに身の丈に合った指標を設定するべきである。

ク 今回の社会基盤整備は、越路・小国地域がターゲットだったのだが、効果の発現自体は、もう少し広域的な意味があるということを理解しなくてはならない。次回計画を作るときは、もう少し感覚を広げていくと、もっといい社会基盤整備を進めていくことができる。

## (2) 事業効果に関する意見

- ア スマートICの効果として、越路の場合、関西方面から長距離運転して来られた方が、休憩を兼ねてもみじ園や酒造会社に立ち寄ってくれている。そういった使われ方は広域的な視点で捉える必要がある。口コミによる情報の広がりもあるようだ。
- イ 「ぎんなんアイス」は、知名度が上がってきており、地道な努力も少しずつ広まっている。
- ウ 越路の広域防災拠点とスマートICであるが、地域住民の地域防災力向上というよりは、例えば、新潟県は首都圏の広域災害時のバックアップ拠点ということを眺望しており、中越大震災当時、越路支所に物資や色々な人たちが来て混乱した経験もあり、インシデントがあったときの、役割分担においても意味がある。また、新潟市内が被害を受けたときのインター直結の広域防災拠点としても役に立つことができる。

## (3) 道路の整備に関する意見

- ア 早期の完成ができれば、利用者や地域住民のイメージが膨らみ易く、整備後の有効活用につながる。
- イ 長年の悲願だったフェニックス大橋の存在は非常に大きい。越路橋、長生橋も含め、越路・小国における交通の利便性の向上に大きく貢献している。
- ウ 渋滞緩和が現在の命題であり、継続的な取組を要する。細かい話では、信号機による交通改善は、すぐできる対応だと思う。
- エ 広域的な交通のネットワークは、将来像が見えてきて便利になってきている。
- オ 長岡南越路スマートICを降りてから、山古志、蓬平方面への案内看板はあるが、もみじ園方面への看板がない。今後、誘導案内をもう少し整備していくと、利便性の向上につながる。

## (4) ソフト面の施策に関する意見

- ア 観光面においても小国・越路地域は、非常に魅力的な地域である。
- イ もみじ園の関係では、もみじ園・柏崎の松雲山荘・弥彦が、もみじコースとなっており、スタンプラリーも行っている。このときにも高速を利用されている方は多い。ハード整備が終わりではなく、道路を有効に機能させるようソフト対策の関係者の努力も必要になってくる。
- ウ 和紙が世界遺産になったことを契機に、小国和紙という地域のブランド化やPRは地域のこれからにつながる。
- エ 小国和紙の生産や研究などを、空き家を活用したり、教育機関と連携したりして、広域的な観光に発展させていけたら、地域活性化の有効な取組になると思う。

(5) その他の意見

- ア 来訪者を増やすことを目指すだけでなく、長岡市民にとって、越路・小国がどれだけ身近になったかということも重要である。
- イ 学校の遠足などで市内の近場にこういった森林があって、子供たちも楽しめる地域があるのに訪れる機会をあまり持てていない方が多い。例えば、子供会等の行事で行けるような場所があると、口コミやSNSの広まりで発展につながっていくのではないか。
- ウ 東京から長岡まで90分の近い距離にあり、東京オリンピックに関連したサテライト会場の誘致など、地域の元気を引き出せる施策に期待している。外国人観光客の増加も考慮し、案内看板の英語表記も今後の検討課題である。
- エ タクシーが公共交通であることの認知度が低い。「駅からカンタクン」(ちょいのり観光)など二次交通の取組を通じて、業界に所属する者として気を引き締めて取り組んでいきたい。

以 上